

外科

名誉院長 緑川 靖彦

いわき市生まれ・育ちの私は、平成5年に呉羽総合病院外科に着任いたしました。以来、30有余年が経過いたしました。30代半ばだった私が60代後半になっているのですから、隔世の感があり、感慨一入です。辛かったこと、うれしかったこと、様々な記憶が交錯しますが、概して、辛かったことが多いように思います(笑)。現在、外科は東和明、羽成直行とともに3人で対応しています。両医師とも技術は確実ですし、責任感が強く、診断、治療に秀でています。そして何より、温和で人当たりが抜群です。今後とも地域に貢献する外科でありたいと思います。よろしくお願いいたします。

外科部長 東 和明

本年4月より新しく羽成直行医師が外科に加わり、緑川名誉院長先生と私を含め、呉羽総合病院外科が3人体制となりました。今回、機会をいただきましたので自己紹介を含め、現外科の診療内容や



左から羽成直行医師、緑川靖彦医師、東和明医師

今後の展望などをご報告申し上げます。

まず、私は1995年に大学を卒業後、当時としては珍しい「スーパーローテート研修」を内科研修医として開始しました。内科とはいいいながら整形外科や産婦人科、脳神経外科など外科系科目を幅広く経験しました。また麻酔科研修が必須だったので、初期研修で気管挿管を習得しました。

その後は都内の病院の救急科に入局し、特に腹部外傷への対応が必要であったため外科の修練を2年半ほど行いました。消化器外科以外に、いわゆる一般外科として皮膚/皮下腫瘍の手術・部分抜爪・四肢の異物除去(ガラス・鉄片他)などについても手ほどきを受けました。

2000年からいわき市内で主に救急の仕事に携わりました。しかし、消化器外科手術のさらなる修練が必要と切に感じ、大学の同級生を頼って2010年から水戸で腹部外科医として専門的に従事することになりました。東日本大震災はその翌年の出来事でした。

数年前にふとした御縁で、緑川先生がお一人で呉羽総合病院の外科を守っていることを知りました。外科経験をそれなりに重ねたこともあり、震災当時には実現できなかった「復興支援の思い」を含めて2022年9月より呉羽総合病院に入職しました。

あれからちょうど3年経ちましたが、約540名の入院患者を担当させていた



できました。この間における当科としての鼠径ヘルニアや胆嚢結石症などの良性疾患、あるいは胃がん・大腸がんの手術はのべ352件ですが、そのうち自分が関与した手術例は227件です（残り125件はほぼ緑川先生と福島医大の派遣医が担当したことになります）。院内急変における緊急手術や、鼠径ヘルニア嵌頓還納後の準緊急手術などもこの中に含まれます。

このほかに近隣の病院からご紹介いただいた褥瘡患者さんやCVポート造設目的の方の入院対応、粉瘤脂肪腫などの皮膚・皮下腫瘍切除、あるいは嵌入爪の部分抜爪なども外来で行ったりしています。また外傷や腹痛などの救急患者を中心に、ときに内科系の救急搬送患者さんの対応もしております。

羽成医師が入職してからは、本格的に腹腔鏡下で大腸がん・胃がんへの対応が可能となりました。基本的に腹腔鏡の手術では、術者・助手・腹腔鏡操作者の3人が必要になります。開腹手術でも、特に緊急手術の場合などは2人より3人のほうが手術は断然楽になります。

全国的に医師の高齢化が叫ばれています。特に外科が最も深刻で、おそらく診療所勤務や開業医を含めた数字かと思われるのですが、その平均年齢は67.2歳だそうです。当院も例外ではなく、3人合わせて150歳は超えています。しかしまだまだ手術に支障が生じている年齢でもありません。むしろそれなりの経験を重ねた3人で行う手術は「より安全性が高い」という見方が成立すると思われます。

一人になってでも「呉羽病院の外科」を守りきれたのは決して緑川先生のスピリットだけではなく、外科医としての高度で確かな技術・知識がなければ不可能だったと思います。これから羽成医師とともにこの緑川先生の極意をしっかりと

受け継ぎ、私たちの次の世代に伝授してゆきたいと思っております。

施設的制限があることは確かですが、3人でいつまでも仲良く、市民の皆様方への医療サービスを提供し続けて参りたいと思っております。

外科部長 羽成 直行

2025年4月より呉羽総合病院の外科に勤務しております羽成（はなり）と申します。茨城県出身です。1996年に大学を卒業し、すぐに千葉大学第二外科（現先端応用外科）に入局しました。今風に言えば直外でしょうか。その後は約30年弱、消化器外科を中心に研鑽を続けました。

開腹手術から腹腔鏡手術、さらにロボット支援下手術へといった外科手術の大きな時代の流れを第一線で経験してきました。2013年に内視鏡外科学会の技術認定医を胃で取得、2022年にはロボット支援手術プロクターを取得しました。いくつかのご施設で腹腔鏡手術やロボット手術の立ち上げに協力させていただきました。

ご存知のように腹腔鏡手術はもはや一

般的なアプローチとして選択されています。胃癌や大腸癌、食道癌など多くの消化器癌でガイドラインでも腹腔鏡手術、胸腔鏡手術が推奨されています。当院でももちろん施行可能ですし比較的難いと言われる食道癌や胃全摘術、下部直腸癌手術などにも対応しております。

また良性疾患でも腹腔鏡は有用で、鼠径ヘルニアはもちろん虫垂炎、イレウス、食道裂孔ヘルニア、アカラシア、直腸脱なども可能な限り腹腔鏡で行っております。鼠径ヘルニアは同じ傷で両側ヘルニアの治療が可能ですし、メッシュを使った直腸脱の手術は再発率もかなり改善します。その他かわったところでは施行困難な内視鏡胃瘻造設（PEG）も腹腔鏡を併用することで安全に施行可能となることがありますのでお困りの際はご相談ください。

もちろん従来の開腹手術が適切なこともありますので、適応を十分考慮して安全第一で臨んでいます。いわきでの新生活を楽しみつつ、いわき市、勿来地区の医療に少しでも貢献できるよう精進していく所存です。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2161
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

- 発行日 令和7年12月
- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1番地-1
TEL.0246-63-2181
FAX.0246-63-0552
URL <https://www.kureha-hosp.jp/>
- 発行人 金子 直樹
- 編集 地域連携支援室